

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの仕組み I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	星 伴路
7. 授業形式	PC(PowerPoint)を用いての講義
8. 授業の目標	人体の構造について広く理解し、医学(解剖学分野)用語に慣れ親しむ
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	講義の妨げになるような行為や周囲の友人に迷惑をかける事
11. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter 著 相磯 貞和 訳 南江堂 『これでわかる！人体解剖パーフェクト辞典』 ナツメ社
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第7版』 松村 譲児 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』 伊藤 隆 著 南山堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章 人体の構成	解剖学概論（人体の構成・区分と方向）
2	第10章 運動器(骨学)	下肢帯の骨（寛骨：腸骨・恥骨・坐骨）と骨盤
3	第10章 運動器(骨学)	自由下肢骨（大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨）と関節
4	第10章 運動器(骨学)	自由下肢骨（足根骨・中足骨・趾骨）と関節
5	第1章 人体の構成	組織学概論（細胞学概論・組織分類）
6	第1章 人体の構成	組織学各論（上皮組織）
7	第1章 人体の構成	組織学各論（筋組織・神経組織）
①	統合教育科目 I	総復習
8		中間試験
②	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
9	第1章 人体の構成	組織学各論（結合組織・支持組織）
10	第1章 人体の構成	組織学各論（細胞間結合と細胞分裂）
11	第6章 生殖器系	生殖器器官の一部（生殖細胞・減数分裂）
12	第6章 生殖器系	発生学とは・発生に関わる用語（排卵・受精・卵割・着床・月経）
13	第6章 生殖器系	各胚葉からの分化
14	第6章 生殖器系	胎盤の構造
③	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	からだの働き I
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	天貝 裕地
7. 授業形式	講義 タブレットPC・プロジェクター使用
8. 授業の目標	生理学は正常な体の機能を理解するために欠かせない基礎的学問です。本科目は体を構成する様々な器官の働きを確実に理解することを目指します。到達目標 専門基礎分野の“生理学”の神経、筋に関し十分な知識を習得する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業予定範囲の教科書をよく読むこと。不明な点があればすぐに質問し、その場で理解するように努めること。復習を怠らないこと。
11. 教科書	『解剖生理』第1版 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『いちばんやさしい生理学』加藤尚志 他著 成美堂出版
13. 推薦参考図書	特になし

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第1章 人体の構成	からだの働きを考える・からだを構成する成分
2	第1章 人体の構成	細胞（細胞膜・細胞質と細胞小器官・遺伝子と遺伝子発現・細胞の死）
3	第1章 人体の構成	体液と恒常性（体液の性質・体液と恒常性）
4	第3章 神経系	神経系と神経組織（神経系の分類・神経組織）
5	第3章 神経系	神経系と神経組織（神経細胞の興奮と伝導・シナプス伝達）
6	第3章 神経系	中枢神経系（中枢神経系の構造・中枢神経系の統合機能）
①	統合教育科目 I	総復習
7		中間試験
②	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
8	第3章 神経系	中枢神経系（大脳・間脳・脳幹・小脳・脳波と睡眠・脊髄・中枢神経系の保護と栄養）
9	第3章 神経系	末梢神経系（脳神経）
10	第3章 神経系	末梢神経系（脊髄神経）
11	第3章 神経系	末梢神経系（自律神経系）
12	第2章 運動器系(筋)	骨格筋の構造と機能
13	第2章 運動器系(筋)	筋収縮の機構
14	第2章 運動器系(筋)	骨格筋の分類と補助装置
③	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	健康科学
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	庄司 智則
7. 授業形式	視聴覚機器を利用しながら、講義形式で進めていきます。
8. 授業の目標	小児から高齢者にいたるまで体や心がどのような変化をしていくのかを学び、各世代のスポーツの楽しみ方や関わり方について理解します。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	はじめて耳にするような専門用語がでてきますので、復習は必ず行って下さい。
11. 教科書	必要に応じて資料を配布します。
12. 副読本	『体力学』中谷敏昭編 化学同人、『新・スポーツ医学』藤本繁夫ら編 嵯峨野書院
13. 推薦参考図書	財団法人日本スポーツ協会・公認スポーツ指導者養成テキスト：共通科目Ⅰ・Ⅲ

14. 講義スケジュール		
回数	単元	概要
1	第1回	ガイダンス、健康とは
2	第2回	スポーツと健康
3	第3回	体力とは1
4	第4回	体力とは2
5	第5回	健康と体力の関係1
6	第6回	健康と体力の関係2
7	第7回	健康と体力の関係3
8	第8回	体力テストの方法
①	統合教育科目Ⅰ	総復習
9	第9回	中間試験
②	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
10	第10回	体力の発育発達1
11	第11回	体力の発育発達2
12	第12回	子供に必要な運動刺激
13	第13回	幼少年期に必要な運動
14	第14回	行動を起こす体力の加齢変化
③	統合教育科目Ⅰ	総復習
15	第15回	期末試験
④	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	コミュニケーション
2. 科目分類	基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	庄司 智則
7. 授業形式	視聴覚機器を利用しながら、講義形式で進めていきます。
8. 授業の目標	1年生の「健康科学」で学習したことを基礎として、各世代に起こりやすいスポーツのケガや予防のためのトレーニング方法、そして具体例として腰部のアスレティックリハビリテーションを詳しく学習します。また、スポーツをコミュニケーションツールの1つとして活用する方策を模索し、具体的な方法について学生が実践できる力を身につけます。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	はじめて耳にするような専門用語がでてきますので、復習は必ず行って下さい。
11. 教科書	必要に応じて資料を配布します。
12. 副読本	『子どもを輝かせるスポーツコミュニケーションスキル』山口文子 体育とスポーツ出版社、『スポーツコミュニケーション』東海林祐子
13. 推薦参考図書	『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』伊藤マモル監修 日本文芸社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1回	ガイダンス、スポーツによって起こるケガ
2	第2回	スポーツ障害1
3	第3回	スポーツ障害2
4	第4回	予防のためのトレーニング
5	第5回	腰部のアスレティックリハビリテーション1
6	第6回	腰部のアスレティックリハビリテーション2
7	第7回	スポーツコミュニケーション
8	第8回	総復習
9	第9回	中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
10	第10回	学生発表1、年齢に応じた指導
11	第11回	学生発表2、効果的なほめ方
12	第12回	学生発表3、効果的な叱り方
13	第13回	学生発表4、やるきの育て方
14	第14回	学生発表5、目標達成シート1
③	統合教育科目Ⅱ	総復習
15	第15回	期末試験
④	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	運動器の基礎を習得する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	タブレット、教科書等授業に必要な物を忘れないでください。
11. 教科書	配布資料、解剖学
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	解剖学の総論	人体の名称、骨・筋・解剖学用語について。
2	解剖学の総論	骨・筋・解剖学用語について。骨筋の概要。
3	上肢の骨筋	上肢の運動、上肢の骨・関節について。
4	上肢の骨筋	上肢の運動、上肢の骨・関節について。
5	上肢の骨筋	上肢の運動、上肢の筋について。
6	下肢の骨筋	下肢の運動、下肢の筋について。
①	統合教育科目 I	総復習
7		中間試験
②	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
8	下肢の骨筋	下肢の運動、下肢の筋について。
9	体幹部の骨筋	体幹部の骨・関節について。
10	体幹部の骨筋	体幹部の運動と筋について。
11	体幹部の骨筋	体幹部の運動と筋について。
12	頭部の骨筋	頭部の骨・関節について。
13	頭部の骨筋	頭部の骨・関節・筋について。
14	頭部の骨筋	頭部の筋について。
③	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	星 伴路
7. 授業形式	PC(PowerPoint)を用いての講義
8. 授業の目標	第1学年の解剖学、生理学で学習した人体の構造・機能を念頭に置いて、まだ終えてない範囲(神経系・感覚器系)との関係性を整理しつつ、理解を深める。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点(小テストや出席、授業態度等)を加味して評価する。
10. 受講上の注意	講義の妨げになるような行為や周囲の友人に迷惑をかける事
11. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter 著 相磯 貞和 訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第7版』 松村 譲児 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』 伊藤 隆 著 南山堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		1年次の解剖学領域の確認と2年次の解剖学の進行予定
2	第8章 神経系	神経系概要(神経組織の構成確認)
3	第8章 神経系	神経系(中枢);脳脊髄共通の構造(脳室系・髄膜・脳脊髄液)
4	第8章 神経系	神経系(中枢);脊髄の構造の確認と各分節の構造における特徴
5	第8章 神経系	神経系(中枢);脳部位の確認と終脳における核・白質の特徴
6	第8章 神経系	神経系(中枢);脳幹・小脳における核・白質の特徴
7	第8章 神経系	神経系(末梢);脳神経の構成とそれぞれの走行
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
8		中間試験
②	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
9	第7章 神経系	神経系(末梢);脊髄神経の構成と脊髄神経後枝について
10	第8章 神経系	神経系(末梢);脊髄神経前枝と神経叢(頸神経叢・腕神経叢)
11	第9章 神経系	神経系(末梢);神経叢(頸神経叢・腕神経叢)
12	第8章 神経系	伝導路(運動伝導路・体性感覚伝導路)
13	第9章 感覚器系	視覚・聴覚・平衡覚の受容器の構造
14	第9章 感覚器系	味覚・嗅覚・一般感覚受容器の構造と感覚伝導路
③	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	解剖学IV
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	星 伴路
7. 授業形式	PC(PowerPoint)を用いての講義
8. 授業の目標	これまでに得た知識の整理し、苦手範囲抽出と更なる人体構造の理解を目指す。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	事前に講義範囲を復習し、疑問点のある程度まとめておく事
11. 教科書	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編
12. 副読本	『ネッター解剖学アトラス 第4版』 F.H.Netter著 相磯貞和訳 南江堂
13. 推薦参考図書	『イラスト解剖学 第7版』 松村 譲児 著 中外医学社 『解剖学講義 改訂3版』 伊藤 隆 著 南山堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		解剖学領域の国家試験の傾向と対策概要
2	第1章 人体の構成	国家試験の傾向と対策（組織学）
3	第6章 生殖器系	国家試験の傾向と対策（発生学）
4	第10章 運動器系	国家試験の傾向と対策（運動器－骨・関節－）
5	第10章 運動器系	国家試験の傾向と対策（運動器－筋・運動様式－）
6	第2章 循環器系	国家試験の傾向と対策（循環器－心臓・動脈－）
7	第2章 循環器系	国家試験の傾向と対策（循環器－静脈・胎児循環－）
8	第2章 循環器系	国家試験の傾向と対策（循環器－リンパ系－）
9	第3章 呼吸器系	国家試験の傾向と対策（呼吸器）
10	第4章 消化器系	国家試験の傾向と対策（消化器－消化管－）
11	第4章 消化器系	国家試験の傾向と対策（消化器－消化腺－）
12	第5・6章 泌尿生殖器系	国家試験の傾向と対策（泌尿器・生殖器）
13	第8章 神経系	国家試験の傾向と対策（神経）
14	第9章 感覚器系	国家試験の傾向と対策（感覚器）
15		期末試験

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	生理学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	武本 泰
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	人体の諸器官の機能を、当該学期では、特に血液、循環、呼吸、消化・吸収の基本について習得する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	双方向の授業、つまり「ディスカッション」や「ディベート」に重点を置くため、自ら「調べ、考える力」を養うよう心がけてる。
11. 教科書	解剖生理学，東洋療法学校協会，医歯薬出版
12. 副読本	生理学，東洋療法学校協会，医歯薬出版
13. 推薦参考図書	人体の構造と機能，放送大学教材

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第6章・血液と免疫	ガイダンス、血液総論
2	第6章・血液と免疫	赤血球総論、赤血球の形状と数、必要成分、一生、溶血、貧血
3	第6章・血液と免疫	白血球、血小板、血漿の成分と働き
4	第6章・血液と免疫	止血のメカニズム、血液型
5	第5章・循環系	循環総論、心臓の構造と働き、刺激伝道系
6	第5章・循環系	心周期、心音、心電図
7	第5章・循環系	血管系、血圧
8	第5章・循環系	循環調節、リンパ系
①	統合教育科目 I	総復習
9		中間試験
②	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
10	第5章・循環系	前回の復習、リンパ系
11	第7章・呼吸器系	呼吸総論、換気とガス交換、ガス運搬
12	第7章・呼吸器系	前回の復習、ガス交換、ガス運搬
13	第7章・呼吸器系	呼吸調節、呼吸の異常
14	第8章・消化器系と代謝・栄養	消化と吸収総論、各栄養素の消化と吸収、消化酵素
③	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床医学総論 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	適切な施術に向けて必要な医療面接技法や診察法、症候にかかわる知識を習得することを目的とする。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る。配布資料は再配布はしないので管理をして下さい。
11. 教科書	『臨床医学総論』東洋療法学校協会篇 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『フィジカルアセスメントがみえる』メディック メディア 『臨床医学各論』東洋療法学校協会篇 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『診察と手技がみえる vol.1 第2版』メディック メディア

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章 診察の概要	診察の意義、診察の一般的心得 関連用語の理解 診察法の種類 診察の順序 記録の目的と内容
2	第2章 診察の方法	医療面接（病歴聴取）
3		視診 触診 打診 聴診 測定法
4		神経系の診察
5	第3章 生命徴候（バイタルサイン）の診察	体温 脈拍 血圧 呼吸
6	第4章 全身の診察	顔貌、顔色 精神状態 言語 身体測定 体型・体格
7		栄養状態 姿勢と体位 歩行
8		皮膚、粘膜、皮下組織 爪の状態 リンパ節 その他の一般状態
9	第5章 局所の診察	頭部 顔面 眼 鼻
10		中間試験
①	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
11	第5章 局所の診察	耳 口腔 頸部
12		胸部 乳房
13		肺・胸膜
14		心臓 腹部
②	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床医学各論 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	手塚 清恵
7. 授業形式	配布プリント、PowerPointを使用する。
8. 授業の目標	現代医学の立場から各疾患の症状についての診察法、検査法、治療法について理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につけることを目指す。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業前に教科書（履修する範囲）を一度読んでおくこと。 配布したプリントの再配布はしないので紛失しないこと。
11. 教科書	『臨床医学各論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『臨床医学総論 第2版』 公益財団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『病気がみえる』シリーズ メディックメディア出版

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章 感染症	総論、細菌感染症
2	第1章 感染症	細菌感染症、ウイルス感染症
3	第1章 感染症	ウイルス感染症、性感染症
4	第2章 消化器疾患	口腔疾患、食道疾患、胃・十二指腸疾患
5	第2章 消化器疾患	胃・十二指腸疾患、腸疾患
6	第2章 消化器疾患	腸疾患、腹膜疾患
7	第3章 肝胆膵疾患	肝臓疾患
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
8		中間試験
②	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
9	第3章 肝胆膵疾患	胆道疾患、膵臓疾患
10	第4章 呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患、閉塞性呼吸器疾患
11	第4章 呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患
12	第4章・第5章	その他の呼吸器疾患・原発性糸球体腎炎
13	第5章 腎・尿路疾患	原発性糸球体腎炎、腎不全、感染症
14	第5章 腎・尿路疾患	感染症、腫瘍性疾患、結石、前立腺疾患
③	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床医学各論Ⅲ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	小野 かおり
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	各疾患の症状についての診察法、検査法、治療法について理解し、東洋医学的知識と統合して鍼灸施術を適切に行う能力・態度を身につけることを目標とする。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	授業前に教科書を読むようにしてください。配布したプリントは再配布しません。
11. 教科書	『臨床医学各論 第2版』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	『臨床医学総論 第2版』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第11章	脳血管障害
2		脳血管疾患、感染性疾患、脳・脊髄腫瘍
3		脳・脊髄腫瘍、基底核変性疾患
4		基底核変性疾患、その他の変性疾患、認知症性疾患
5		認知症性疾患、筋疾患
6		運動ニューロン疾患、末梢神経性疾患
7		神経痛、機能性疾患
8	第12章	リウマチ性疾患、膠原病
9		膠原病
10	第13章	小児科疾患、一般外科、麻酔科
11		婦人科疾患、皮膚疾患、眼科疾患
12		耳鼻科疾患、精神科疾患、心療内科
13		加齢に伴う病態
14		復習
15		期末試験

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	リハビリテーション学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	後藤 陽正
7. 授業形式	座学
8. 授業の目標	鍼灸師としてのリハビリテーションを理解させる。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	積極的な参加を希望します。
11. 教科書	リハビリテーション医学 第4版 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	B. 脊髄損傷のリハビリテーション	1. 脊髄損傷とは 2. 脊髄損傷による機能障害
2	〃	3. 急性期のリハビリテーション～6. ケアとリスク管理
3	C. 切断のリハビリテーション	1. 切断の原因と分類～5. アフターケア
4	D. 小児のリハビリテーション	2. 脳性麻痺のリハビリテーションの特徴
5	E. 骨関節疾患のリハビリテーション	1. 五十肩～4. 変形性膝関節症
6	〃	5. 変形性股関節症～7. スポーツ障害
7	F. 関節リウマチのリハビリテーション	1. 関節リウマチとは
8	G. 末梢神経障害のリハビリテーション	1. 末梢神経障害とは
9	H. パーキンソン病のリハビリテーション	1) パーキンソン病とは
10	I. 呼吸器疾患のリハビリテーション	リハビリテーションの意義
11	J. 心疾患のリハビリテーション	1) 心疾患のリハビリテーションとは
12	A. 運動学の基礎	1. 関節運動 2. 姿勢 3. 運動路と感覚路
13	歩行	正常歩行と異常歩行
14	総復習	総復習
15		期末試験

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	衛生学・公衆衛生学 I
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	小野 かおり
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	集団を対象とした様々な健康課題を社会と環境との視点から理解することを目標とする。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業前に教科書を読むようにしてください。 配布したプリントは再配布しません。
11. 教科書	『衛生学・公衆衛生学 第2版』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第1章 衛生学の意義	衛生学、公衆衛生学とは、衛生学・公衆衛生学の歴史、衛生学・公衆衛生学の活動と意義
2	第2章 健 康	健康の概要
3		健康管理
4	第13章 保健統計	保健統計の意義
5		おもな保健統計とその意義
6		主要な保健統計指標
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
7		中間試験
②	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
8	第9章 成人・高齢者保健	成人・高齢者保健の意義、加齢と老化、生活習慣病の特徴と対策 高齢者の保健福祉対策、介護保険、難病対策の現状
9	第7章 母子保健	母子保健の意義、母体の健康
10		乳幼児の健康、母体保護と家族計画、少子化問題と子育て支援
11	第5章 産業保健	産業保健の意義、労働衛生行政
12		労働環境と健康、労働災害とその対策、業務上疾病とその対策
13	第6章 精神保健	精神保健の意義、精神の保健、精神障害の現状と分類
14		精神障害の現状と分類
③	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	菊地 裕一
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	国家試験に対応できる知識の修得。施術者として衛生環境に配慮することを意識させる。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	日々の復習を怠らないこと。国家試験の過去問にも早い段階で各自触れておくこと。配布した資料は整理して自分で使いやすいように工夫しておくこと。
11. 教科書	衛生学・公衆衛生学 第2版（医歯薬出版株式会社）
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	公衆衛生がみえる2022-2023 メディックメディア

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第3章 健康とライフスタイル	食生活と生活習慣病との関連、食品の分類、食品の安全性、食中毒について基礎的な内容を抑える。
2		
3		
4	第4章 環境と健康	日常生活において環境が自分たちの生活にどう影響しているか。公害、上下水道、有害物質について学ぶ。
5		
6		
7	第10章 感染症とその対策	感染症の成立、感染症の種類と現状、感染症対策の概略（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、検疫法、予防接種法）について把握する。
8		
9		
10	第11章 消 毒	消毒の意義、消毒の種類と方法を知ることにより、病原体や対象物を考慮し、院内感染対策など目的に合わせた消毒方法の選択を把握する。
11		
12	第12章 疫 学	疾病は、疾病の発症に関わる要因、原因が解らなければ予防することは出来ない。疫学とは、疾病の要因や原因の究明を目的とした調査研究であり、調査の基本的考え方、調査対象、調査方法、調査結果の分析の概略について把握する。
13		
14		
15		期末試験

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	医療概論
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	我が国の医療制度、医療従事者に求められる倫理等を学ぶことを通じて、医療の概要を理解する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。
11. 教科書	『医療概論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版 (授業で配布するプリントに従って講義を行う。)
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第2章 現代の医学と医療	・現代の医療制度（医療経済、医療保険、介護サービス行政等）を学ぶ。
2		・現代の医療制度（医療経済、医療保険、介護サービス行政等）を学ぶ。
3		・現代の医療制度（医療経済、医療保険、介護サービス行政等）を学ぶ。
4		・現代の医療制度（医療経済、医療保険、介護サービス行政等）を学ぶ。
5	第3章 医療従事者の倫理	・医療倫理を学ぶ。
6		・医療倫理を学ぶ。
7		・医療倫理を学ぶ。
8		期末試験

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	関係法規
2. 科目分類	専門基礎分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	あはき師等に関する法令および医療に係る各種の関係法規について理解する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。
11. 教科書	『関係法規 第7版』 社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版 (授業で配布するプリントに従って講義を行う。)
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	序論 法とは何か 第1章 あはき師等に関する法律	・法の意義、体系を学ぶ。あはき法（法制定の目的、免許等）を学ぶ。
2	第1章 あはき師等に関する 法律	・あはき法（免許、申請等）を学ぶ。
3		・あはき法（業務、届出、設備基準等）を学ぶ。
4		・あはき法（名称制限、広告制限、罰則等）を学ぶ。
5		・医療に係る各種の関係法規（医事法規等）を学ぶ。
6	第2章 関係法規	・医療に係る各種の関係法規（薬事法規、衛生関係法規等）を学ぶ。
7		・医療に係る各種の関係法規（社会福祉関係法規、社会保険関係法規等）を学ぶ。
8		期末試験

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	はりきゅう理論Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等7年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	授業はPCを使用して、PowerPointで講義します。授業資料は基本的にPDFで事前に共有します。Ipadで見れるようにします。必要な人に限りプリントを印刷します。授業の後半は国試の過去問を解く時間を設けます。
8. 授業の目標	鍼や灸の治効機序とそれを理解するための基礎的な生理学の知識を身につけるとともに、1年次で学習した内容を復習し、国家試験に必要な知識を身につける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	国家試験の過去問や模擬試験でわからない部分を丁寧に整理し、4択問題に対応できる知識を身につける。
11. 教科書	『はりきゅう理論』教科書執筆小委員会著 医道の日本社
12. 副読本	『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ』矢野 忠編集主幹 文光堂 『生理学』公益社団法人東洋療法学校協会 医歯薬出版 『図解鍼灸臨床手技マニュアル』尾崎昭弘著 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『鍼灸臨床最新科学 メカニズムとエビデンス』矢野 忠・川喜田 健司編 医歯薬出版株式会社

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第9章	運動系と鍼(教科書P111～113)
2		消化器系と鍼(教科書P113～115)
3		泌尿器と鍼(教科書115～116)
4		リラクゼーションと鍼、生体防御と鍼(教科書117～121)
5		循環系と鍼(教科書P105～110)
6		感覚総論(種類による受容器・神経線維・伝導路の違い)
7		感覚各論(痛覚)
8		感覚各論(温度覚・触圧覚)
9		熱傷・炎症について
10		体表の反応について
11		鍼鎮痛について(SIA・下行性痛覚抑制系)
12		鍼鎮痛について(DNIC・脊髄分節性鎮痛・末梢性鎮痛・鎮痛の個人差)
13		鍼灸の術式や道具について(古代九鍼など)
14		鍼灸の術式や道具それぞれが与える体性感覚刺激について
15		期末試験

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	経絡経穴概論 I ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	菊地 裕一
7. 授業形式	講義形式
8. 授業の目標	経絡・経穴とは何かを理解する。取穴時に使用する解剖学用語に慣れる。各要穴を覚える。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	今まで皆さんが習ってきたものにはないような言葉や漢字が頻出しますので、わからない漢字にはふりがなを記載してください。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『解剖学 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『新版 東洋医学概論』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『針灸学[経穴篇]』天津中医薬大学、学校法人後藤学園（編）東洋学術出版社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単元	概要
1	第1章経絡・経穴の基礎	経絡経穴概論とはどんな教科か。経絡、経穴とは何か。
2		陰陽と五行の概要。3. 経絡の概要 1) 経絡について 2) 正経十二経脈の流注
3		3) 奇経八脈について 4) 経別について 5) 絡脈について
4		6) 経筋、皮部について
5		4. 経穴の概要 1) 腧穴について 2) 経穴について 3) 経穴部位の決定方式
6	第2章経脈・経穴	1. 解剖学的肢位と方向に関する用語
7		骨度法 体表指標について
①	統合教育科目 I	総復習
8		中間試験
②	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
9	第1章経絡・経穴の基礎	5) 要穴の概略 (1) 五要穴
10		(2) 五腧穴・五行穴
11		(3) 四総穴 (4) 八会穴
12		(5) 八脈交会穴 (6) 交会穴 (7) 下合穴 6) 禁鍼穴・禁灸穴
13	第2章経脈・経穴	奇形八脈を構成する経穴
14	第3章経絡・経穴の現代的研究	1. 経絡現象 2. 経穴の概念と現代科学的研究
③	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	経絡経穴概論Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等2年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	飯田 あずさ
7. 授業形式	講義形式（配布資料）
8. 授業の目標	東洋医学の言葉に慣れ親しむ。経絡の役割や流注について理解し、実際に身体を走行する経絡のイメージができるようにする。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	教科書や資料の他に必要なものがあればその都度伝えますので、忘れないようにしてください。分からない言葉などあれば、授業外でも積極的に質問してください。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『新版 東洋医学概論』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『針灸学〔経穴編〕』天津中医薬大学・学校法人後藤学園 編 東洋学術出版社
13. 推薦参考図書	『全訳 経絡学』李鼎著 浅野周訳 たにぐち書店

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	経絡経穴 第1章 p.2- 東洋医学概論 p.150-	授業ガイダンス、東洋医学と経絡経穴について
2		経絡の種類、十二経脈の流注について
3		〃
4	経絡経穴 p.52,60,72 (針灸学 p.43-62)	経脈の走行と異常について（手の太陰肺経、手の陽明大腸経、足の陽明胃経）
5		〃
6	経絡経穴 p.92,104,110 (針灸学 p.63-79)	経脈の走行と異常について（足の太陰脾経、手の少陰心経、手の太陽小腸経）
7		〃
①	統合教育科目Ⅰ	総復習
8		中間試験
②	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
9	経絡経穴 p.120,150,164 (針灸学 p.80-97)	経脈の走行と異常について（足の太陽膀胱経、足の少陰腎経、手の厥陰心包経）
10		〃
11	経絡経穴 p.170,182,202 (針灸学 p.98-116)	経脈の走行と異常について（手の少陽三焦経、足の少陽胆経、足の厥陰肝経）
12		〃
13	経絡経穴 p.26,40,212 (針灸学 p.117-138)	奇経八脈の走行と異常について
14		〃
③	統合教育科目Ⅰ	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	東洋医学概論Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等7年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	石丸 幸宏
7. 授業形式	パソコンを使ってPowerPointソフトで説明を行う。学生への資料配布はPDFで配布する。
8. 授業の目標	東洋医学的な臓腑の生理的な見方を理解し、それらの関係性をとらえる。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	授業で触れたことをしっかりと復習し、自分なりに理解するように努める、疑問を感じたら、積極的に質問をする事。
11. 教科書	『新版 東洋医学概論』
12. 副読本	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』『鍼灸技術ガイドⅠ』
13. 推薦参考図書	『中医学の仕組みがわかる基礎講義』兵頭明著 医道の日本社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		蔵象学とは何か。五臓、六腑、奇恒の腑の違い。について
2		肝の生理作用・特性・関連する領域について
3		胆の生理作用・特性。肝と胆の相互関係。肝と関連のある奇恒の腑（女子胞）について
4		心の生理作用・特性・関連する領域について
5		小腸の生理作用・特性。心と小腸の相互関係。心と関連のある奇恒の腑（脈や脳）について
6		脾の生理作用・特性・関連する領域について
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
7		中間試験
②	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
8		胃の生理作用・特性。脾と胃の相互関係。
9		肺の生理作用・特性・関連する領域について
10		大腸の生理作用・特性。肺と大腸の相互関係。
11		腎の生理作用・特性・関連する領域について
12		膀胱の生理作用・特性。肺と大腸の相互関係。
13		五臓の相互関係
14		五臓の相互関係
③	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	はりきゅう適応判断※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等19年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	講義形式、問題演習・解説
8. 授業の目標	基礎を理解し病態を把握する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	タブレットなどを忘れないください。動画撮影・録音は禁止いたします。
11. 教科書	解剖学、経絡経穴、東洋医学臨床論、臨床医学総論1・2年生で使用した資料など
12. 副読本	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	運動器疾患（西洋医学）	絞扼性疾患、徒手検査について、運動器全般の四択問題
2	運動器疾患（西洋医学）	絞扼性疾患、徒手検査について、運動器全般の四択問題
3	運動器疾患（西洋医学）	腰疾患、徒手検査について、運動器全般の四択問題
4	運動器疾患（西洋医学）	腰疾患、徒手検査について、運動器全般の四択問題
5	運動器疾患（西洋医学）	上肢疾患（肩、上肢など）、徒手検査について、運動器全般の四択問題
6	運動器疾患（西洋医学）	上肢疾患（肩、上肢など）、徒手検査について、運動器全般の四択問題
7	運動器疾患（西洋医学）	頸部疾患、徒手検査について、運動器全般の四択問題
8	運動器疾患（西洋医学）	頸部疾患、徒手検査について、運動器全般の四択問題
9	運動器疾患（西洋医学）	下肢疾患、徒手検査について、運動器全般の四択問題
10	運動器疾患（西洋医学）	下肢疾患、徒手検査について、運動器全般の四択問題
11	運動器疾患（西洋医学）	その他の疾患、徒手検査について、運動器全般の四択問題
12	運動器疾患（西洋医学）	その他の疾患、徒手検査について、運動器全般の四択問題
13	運動器疾患（西洋医学）	その他の疾患、徒手検査について、運動器全般の四択問題
14	運動器疾患（西洋医学）	その他の疾患、徒手検査について、運動器全般の四択問題
15	運動器疾患（西洋医学）	期末試験

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	東洋医学臨床 I ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等23年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	東洋医学的な診断法と西洋医学的な診断法を理解する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	覚える事が多い様に見えますが、理解すること、感覚でわかる事に注視して下さい。小テストは教科書はネットを駆使して解答して下さい。調べることも勉強です。
11. 教科書	新版『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』公益社団法人 東洋療法学校協会編 南江堂
12. 副読本	『新版 東洋医学概論』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		第2章各論 第1節疼痛 I. 疼痛 II. 頭痛 III. 顔面痛の西洋医学的診断と治療
2		V. 頸肩腕痛 VI. 上肢痛の西洋医学的診断と治療
3		IV. 関節痛 VII. 肩関節痛の西洋医学的診断と治療
4		VIII. 腰下肢痛 IX. 腰痛 X. 下肢痛の西洋医学的診断と治療
5		XI. 膝痛 XII. 胸痛 XIII. 腹痛の西洋医学的診断と治療
6		第2節臓腑と関連する症候 2-1 肝系統 I. 眼精疲労 II. 気分障害（うつ状態）
7		III. めまいの西洋医学的診断と治療
①	統合教育科目Ⅱ	今までの授業の総復習
8		中間試験
②	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
9		疾病の東洋医学的考え方の基本 「〇〇による××」の考え方。
10		東洋医学に基づく疼痛の考え方「不通則痛」「不榮則痛」
11		第2章各論 第1節疼痛 I. 疼痛 II. 頭痛 III. 顔面痛の東洋医学的診断と治療
12		IV. 関節痛 V. 頸肩腕痛 VI. 上肢痛 VII. 肩関節痛の西洋医学的診断と治療
13		グループ討論
14		VIII. 腰下肢痛 IX. 腰痛 X. 下肢痛 XI. 膝痛 XII. 胸痛 XIII. 腹痛の西洋医学的診断と治療
③	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	東洋医学臨床Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等12年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	講義、ICT機器
8. 授業の目標	東洋医学の身体観に基づく診察法及び診察から治療に至る過程の基礎を理解する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	受験資格を得るためには3分の2以上の出席が必要となる。
11. 教科書	『新版 東洋医学概論』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『鍼灸学（基礎篇）』 日中共同編集 東洋学術出版社 『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ』 矢野忠（編） 文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単元	概要
1	第4章 四診	・四診の概要、望診（主に舌診）を学ぶ。
2		・望診（主に舌診）を学ぶ。
3		・望診（主に舌診）、聞診を学ぶ。
4		・東洋医学的な問診（主訴、基本的問診事項）を学ぶ。
5		・東洋医学的な問診（基本的問診事項）を学ぶ。
6		・東洋医学的な問診（基本的問診事項）を学ぶ。
7		・東洋医学的な問診（その他の問診事項等）を学ぶ。
①	統合教育科目Ⅱ	総復習
8		中間試験
②	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業
9	第4章 四診	・東洋医学的な問診（その他の問診事項等）を学ぶ。
10		・切診（反応、腹診、切経、脈診等）を学ぶ。
11		・切診（主に脈診）を学ぶ。
12	第5章 弁証論治	・弁証方法の概要、八綱弁証、気血津液弁証及びそれらの病証に対する治法を学ぶ。
13		・臓腑弁証（肝・心・脾胃等）及びそれらの病証に対する治法を学ぶ。
14		・臓腑弁証（肺・腎等）、外感病の弁証及びそれらの病証に対する治法を学ぶ。
③	統合教育科目Ⅱ	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目Ⅱ	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	東洋医学臨床Ⅳ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等2年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	飯田 あずさ
7. 授業形式	講義形式（資料配布、スライド）、問題演習
8. 授業の目標	これまで学んだ経穴について、より理解を深め幅広い応用問題に対応できる能力を身につける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	配布資料は分かりやすく保管すること。配布問題はやりっぱなしでなく、間違いを分析し、自分の得意・不得意を知るために活用すること。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 配布資料
12. 副読本	『解剖学 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『カラー版 経穴マップ 第2版』王曉明著 医歯薬出版

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章 p2-15	経絡・経穴の基礎（概要、流注、奇経、経筋、皮部など） 骨度法と同身寸法
2		
3	要穴①	五要穴と五俞穴・五行穴の概要、経穴名
4	要穴②	五要穴と五俞穴・五行穴の取穴部位
5	要穴③	四総穴、八会穴、八脈交会穴、下合穴の概要と取穴部位
6	第2章 p216-229	奇穴・組合せ穴
7	体幹の経穴	胸腹部・腰背部の横並び、デルマトーム
8	頭顔面部の経穴	三叉神経支配領域と経穴
9	頭顔面部の経穴	頭顔面部の筋と経穴、横並びなど
10	その他	頸部の経穴、動脈拍動部の経穴
11	上肢の経穴	筋・解剖学的指標と経穴
12	下肢の経穴	筋・解剖学的指標と経穴
13	その他	上肢・下肢のデルマトーム・皮神経と経穴
14	まとめ	その他 間違いやすい・注意すべき経穴について
15		期末試験

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	社会鍼灸学※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等7年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	2単位
6. 担当講師	益子 勝良
7. 授業形式	講義、問題演習
8. 授業の目標	地域における鍼灸師の立場・役割を理解し、それに必要な知識を身につける。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	常に必要な教科書を準備し、問題に対し真摯に取り組む。また、期日までにしっかりと課題を行っていく。
11. 教科書	『臨床医学総論』・『臨床医学各論』 『社会あはき学』 医歯薬出版
12. 副読本	プリント
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	あはき師を取り巻く環境	医療制度と現状
2	地域で期待されるあはき師の業務	施術所におけるあはき治療
3	地域で期待されるあはき師の業務	在宅医療における愁訴鑑別
4	地域で期待されるあはき師の業務	在宅医療における愁訴鑑別
5	現在社会におけるあはき師の役割	感染症についての解説・問題演習
6	現在社会におけるあはき師の役割	消化器疾患についての解説・問題演習
7	現在社会におけるあはき師の役割	肝胆膵疾患についての解説・問題演習
8	現在社会におけるあはき師の役割	肝胆膵疾患についての解説・問題演習
9	現在社会におけるあはき師の役割	呼吸器疾患についての解説・問題演習
10	現在社会におけるあはき師の役割	呼吸器疾患についての解説・問題演習
11	現在社会におけるあはき師の役割	腎尿路疾患についての解説・問題演習
12	現在社会におけるあはき師の役割	内分泌疾患についての解説・問題演習
13	現在社会におけるあはき師の役割	内分泌疾患についての解説・問題演習
14	現在社会におけるあはき師の役割	整形外科疾患についての解説・問題演習
15		期末試験

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技 I ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等20年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	手塚 清恵、菊地 裕一
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	鍼治療の基本的な知識を学び、体の様々な部位に安全に目的の深さや角度で刺鍼できる技術を身につける。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	清潔なKCを着用し、身だしなみを整える。準備や後片付けをしっかりと行う。
11. 教科書	『はりきゅう理論』社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『図解鍼灸臨床手技マニュアル第2版』尾崎昭弘著 医歯薬出版（株）
12. 副読本	『新版 経絡経穴概論』社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『図解鍼灸療法技術ガイド I』矢野忠編集主幹 文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		イントロダクション
2	第1章、第2章、第7章2.	はりきゅう理論p1～8、p34～35
3	第3章	はりきゅう理論p9～14
4	第4章	はりきゅう理論p15～20、片手挿管
5	第3章	はりきゅう理論p9～14、片手挿管、刺鍼練習
6	第3章	はりきゅう理論p9～14、片手挿管、刺鍼練習
7	第3章	片手挿管、刺鍼手技の確認
8		中間試験／まとめ
9	第7章1. 2.	はりきゅう理論p29～38
10	第7章3.	はりきゅう理論p39～43
11		片手挿管、刺鍼練習（自分への施術）、手技Mp161～p182（下腿部）
12		片手挿管、刺鍼練習（自分への施術）、手技Mp161～p182（大腿部）
13		片手挿管、刺鍼練習、刺鍼手技の確認
14		片手挿管、刺鍼練習（対人施術）、手技Mp161～p182（大腿部）
15		片手挿管、刺鍼練習（対人施術）、手技Mp161～p182（下腿部）
16		片手挿管、刺鍼練習（対人施術）、手技Mp161～p191（大腿部／下腿部）
17		まとめ
18		期末試験
19		試験の振り返り
20		まとめ

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	基礎実技Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等19年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	講義、実技
8. 授業の目標	お灸についての知識と技能の取得
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	KCやジャージ。実技道具・タブレット等を忘れないでください。 動画撮影は必ず教員に断ってから撮影して下さい。
11. 教科書	配布資料、解剖学
12. 副読本	経絡経穴
13. 推薦参考図書	はり灸理論、鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	お灸の体験	お灸とは何なのか、どのような効果があるのかを学ぶ。 お灸の種類や方法、手技などについて知識を取得する。
2	お灸の基礎	艾・艾の生成。火傷の処置について。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
3	お灸の基礎	灸法の種類について。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
4	お灸の基礎	灸法の種類について。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
5	お灸の基礎	灸の手技について。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
6	お灸の基礎	線香について。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
7	お灸の基礎	お灸の効果について。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
8	お灸の基礎	お灸の刺激量について。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
9		中間試験 筆記試験
10	お灸の基礎	熱量の調節について。知熱灸の実技。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
11	お灸の基礎	熱の受容器について。知熱灸の実技。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
12	お灸の基礎	知熱灸の実技。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
13	お灸の基礎	火傷について。知熱灸の実技。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
14	お灸の基礎	火傷について。知熱灸の実技。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
15	お灸の基礎	お灸の過誤について。知熱灸の実技。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
16	お灸の基礎	知熱灸の実技。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
17	お灸の基礎	知熱灸の実技。知熱灸のひねり方。お灸による体の変化。
18		期末試験
19	お灸の基礎	知熱灸。自分自身への施灸
20	お灸の基礎	知熱灸。自分自身への施灸

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技 I ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等23年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	篠原 勝
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	鍼・灸をすると身体にどんな変化をもたらし、治療につなげていくのかを考える。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	東洋医学臨床論と連動するが、実技では主に西洋医学的観点から考えていく。
11. 教科書	『東洋医学臨床論（はりきゅう編）』公益社団法人 東洋療法学校協会編 南江堂 『新版 経絡経穴概論 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『解剖学 第2版』公益社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		治療に対する考え方。鍼治療の意味。
2		II. 頭痛に対する治療法 診断とツボ（天柱・風池・完骨）
3		III. 顔面痛の治療法（陽白、四白、大迎）
4		V. 頸肩腕痛に対する治療1（頸椎症）徒手検査、C1～C7棘突起、横突起
5		V. 頸肩腕痛に対する治療2（胸郭出口症候群）徒手検査、斜角筋、烏口突起
6		VI. 上肢痛に対する治療 徒手検査、上腕骨外側上顆、内側上顆
7		VII. 肩関節痛に対する治療 徒手検査、肩髃、肩髃
8		VIII. 腰下肢痛 IX. 腰痛に対する治療 徒手検査、大腸俞、関元俞、次髎
9		中間試験
10		試験結果講評 今までの復習（徒手検査）
11		X. 下肢痛に対する治療 大腿胃経、脾経
12		XI. 膝痛に対する治療 徒手検査、膝蓋骨周囲の鍼
13		XII. 胸痛に対する治療 脊柱点、側胸点、胸骨点
14		XIII. 腹痛に対する治療 腹診と散針
15		2-1 肝系統 I. 眼精疲労に対する治療（瞳子髎（太陽）、攢竹、四白）
16		III. めまいに対する治療 検査法、翳風、耳門、聽宮、聽会
17		期末試験の模擬テスト
18		期末試験
19		検査と診断
20		診断と治療

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等7年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	益子 勝良
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	身体診察、テスト法を理解し、実施できる。また、疾病の成り立ちについて理解し、適切な身体診察、テスト法、治療法を行える。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	指示以外のことは実施しない。
11. 教科書	『フィジカルアセスメントがみえる』メディックメディア 『鍼灸療法技術ガイド』文光堂
12. 副読本	プリント
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	医療面接	医療面接とは
2	医療面接	医療面接の実際
3	身体診察法	バイタルサイン
4	身体診察法	バイタルサイン、血圧測定
5	身体診察法	神経の伝導路、神経診察法（表在感覚、深部感覚）
6	身体診察法	神経系診察法（複合感覚、反射検査、自律神経反射）
7	身体診察法	神経系診察法（病的反射、脳神経系の診察法）
8		中間試験
9	身体診察法	神経系診察法（病的反射、脳神経系の診察法）
10	身体診察法	神経系診察法（髄膜刺激症状検査、協調運動、ROM、MMT）
11	身体診察法	神経系診察法（髄膜刺激症状検査、協調運動、ROM、MMT）
12	徒手検査法	肩関節の徒手検査法
13	肩関節疾患	五十肩の病態把握・診断方法
14	肩関節疾患	五十肩の治療法
15	肩関節疾患	野球肩の病態把握・診断方法
16	肩関節疾患	野球肩の治療法
17	徒手検査法	肘部・手関節の徒手検査法
18		期末試験
19	肘部・手関節疾患	内・外側上顆炎、変形性肘関節症、野球肘、手指の変形性関節症の病態把握・診断方法
20	肘部・手関節疾患	内・外側上顆炎の治療法

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	応用実技Ⅳ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等19年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	岩澤 勉
7. 授業形式	実技、講義
8. 授業の目標	人体の構造を学習し、テーピング・ストレッチ、鍼灸施術などの技術を習得する。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。動画撮影は教員の許可をもって可能とする。
10. 受講上の注意	使用する用具や着替え・タブレット等を忘れない事。
11. 教科書	配布資料、解剖学、経絡経穴等
12. 副読本	解剖学、基礎から学ぶスポーツテーピング、アスリートケアマニュアル等
13. 推薦参考図書	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	上・下肢の筋と外傷	筋・運動方向について基礎を深め、外傷について学習する。
2	上・下肢の筋と外傷	筋について基礎を深め、外傷について学習する。パルスの使用方法
3	下肢術（基礎から施	下腿・足関節のストレッチ・トレーニング等
4	下肢術）（基礎から施	下腿・足関節のテーピング実習等 基礎・実技
5	下肢術）（基礎から施	下腿・足関節のテーピング実習等 実技
6	下肢術）（基礎から施	下腿・足関節の評価と鍼灸施術 パルス
7	下肢術）（基礎から施	膝・股関節のストレッチ、トレーニング等
8	下肢術）（基礎から施	膝・股関節のテーピング実習等 基礎・実技
9		中間試験
10	下肢術）（基礎から施	膝・股関節の下腿・足関節のテーピング実習等 実技
11	下肢術）（基礎から施	膝関節・下腿の評価と鍼灸施術 パルス
12	上肢術）（基礎から施	頸・肩関節関節のストレッチ・トレーニング等
13	上肢術）（基礎から施	頸・肩関節関節のテーピング実習等 基礎・実技
14	上肢術）（基礎から施	頸・肩関節の評価と鍼灸施術 パルス
15	上肢術）（基礎から施	肘関節・手関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等
16	上肢術）（基礎から施	肘関節・手関節のストレッチ、テーピング実習、トレーニング等
17	上肢術）（基礎から施	肘関節・手指の評価と鍼灸施術
18		期末試験
19	その他	鍼灸施術（鍼通電）
20	その他	鍼灸施術（鍼通電）

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実技Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	行田 直人
7. 授業形式	実技室にて実習を行う
8. 授業の目標	五刺、九刺、常用穴刺鍼および施灸を再理解し、各種疾患に関する鍼灸施術を 実践理解できることを目標とする
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する
10. 受講上の注意	鍼灸具および教科書を毎回持参すること
11. 教科書	『図解鍼灸臨床手技マニュアル（第2版）』医歯薬出版株式会社 および適時 配布資料
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	刺鍼手技について	単刺・置鍼・回旋・雀啄術等、現行の刺鍼手技を実践し再理解する
2	五刺について	五刺の実践を行いどのような疾患に活用されるのかを理解する
3	九刺について	九刺の実践を行いどのような疾患に活用されるのかを理解する
4	背部常用穴刺鍼	背部の刺鍼法・灸法を実践再理解し背部穴を用いる疾患を理解する
5	腰殿部常用穴刺鍼	腰殿部の刺鍼法・灸法を実践再理解し腰殿部穴を用いる疾患を理解する
6	肩部常用穴刺鍼	肩部の刺鍼法・灸法を実践再理解し肩部穴を用いる疾患を理解する
7	上腕部常用穴刺鍼	上腕部の刺鍼法・灸法を実践再理解し上腕部穴を用いる疾患を理解する
8	前腕・手部常用穴刺鍼	前腕・手部の刺鍼法・灸法を実践再理解し前腕・手部穴を用いる疾患を理解する
9	大腿部常用穴刺鍼	大腿部の刺鍼法・灸法を実践再理解し大腿部穴を用いる疾患を理解する
10	膝部常用穴刺鍼	膝部の刺鍼法・灸法を実践再理解し膝部穴を用いる疾患を理解する
11	下腿部常用穴刺鍼	下腿部の刺鍼法・灸法を実践再理解し下腿部穴を用いる疾患を理解する
12	足部常用穴刺鍼	足部の刺鍼法・灸法を実践再理解し足部穴を用いる疾患を理解する
13	胸腹部常用穴刺鍼	胸腹部の刺鍼法・灸法を実践再理解し胸腹部穴を用いる疾患を理解する
14	頭頸・顔面部常用穴刺鍼	頭頸・顔面部の刺鍼法・灸法を実践再理解し頭頸・顔面部穴を用いる疾患を理解する
15	総合復習 1	肩部・腰部の整形外科疾患に対する刺鍼・灸法を実践しその手法を理解する
16	総合復習 2	膝・足部の整形外科疾患に対する刺鍼・灸法を実践しその手法を理解する
17	総合復習 3	内科的疾患（肺・胃腸系）に対する刺鍼・灸法を実践しその手法を理解する
18	総合復習 4	六部定位脈診を用いた各種疾患の考え方の例を理解する
19		期末試験
20	総理解	これまでの実技内容について理解を深める

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実技Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等16年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	実技
8. 授業の目標	良導絡の理論を知り、理論に基づき測定、診断、治療方針を立て治療することを目標とする。美容鍼灸の基本手技を学び実施できるようになることを目的とする。
9. 成績評価	単元ごとの試験と期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	5分の4以上の出席で受験資格を得る
11. 教科書	『良導絡 自律神経調整療法 基礎編』日本良導絡自律神経学会 学術部篇 『よくわかる美容鍼灸』上田隆勇著 三和書籍
12. 副読本	『経絡経穴概論』社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単元	概要
1	2年生の復習	2年生の復習
2	良導絡自律神経調整療法	良導絡についてP2、P19 測定方法P40～P46 良導点・反応良導点P22-23 カルテへのプロットP47
3		良導絡について、経絡との相違点P24、P26 異常良導絡、生理的範囲P48、49、50
4		平均電流量についてP51、52 EAP鍼について鍼の使い方
5		興抑調整についてP60-61 良導絡症候群についてP52～59不問診
6		基本調整法についてP62-63 EAP鍼についてP64 通電について
7		直流電気鍼とはP32-35 反応良導点治療についてP65-68 刺激についてP68-74
8		一連の治療の流れを行う
9	試験	良導絡自律神経調整療法の試験
10	美容鍼灸	美容鍼灸の概論 全身治療
11		各論 ほうれい線・口角下端のたるみ
12		顔は心と体を映し出す 各論 笑いじわ
13		よく見るスキントラブル1 各論 ほうれい線の上端のしわ
14		しわに対するアプローチ 各論 下眼瞼のたるみ・しわ カラスの足跡
15		各論 下眼瞼のたるみ・しわ カラスの足跡
16		よく見るスキントラブル2 各論 眼瞼下垂・眉間・鼻根のしわ
17		肌のトラブル 各論 前額のしわ、たるみ フェイスラインのたるみ
18		復習
19	試験	期末試験
20		復習

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	総合実技Ⅰ ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等12年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人
7. 授業形式	実技、講義
8. 授業の目標	経脈の流注、経穴の名称および部位を覚え、体表面から実際の経穴を取穴できるようにする。経穴部位に関連する体表指標について、解剖学的名称および部位を覚える。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	実技室を使用する際はKCを着用し、適宜、ショートパンツ等を用意すること。東洋医学特有の用語や漢字に慣れ親しむことができるよう、日頃からの学習を期待します。
11. 教科書	『新版 経絡経穴概論 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社
12. 副読本	『解剖学 第2版』 社団法人 東洋療法学校協会編 医道の日本社 『針灸学（経穴篇）』 日中共同編集 東洋学術出版社
13. 推薦参考図書	『経穴マップ』 王曉明(著) 医歯薬出版 『ツボ単』 形井秀一, 高橋研一(監) NTS

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	第1章 経脈経穴の基礎	経穴の概要、取穴実技の概要
2	第1章 経脈経穴の基礎	骨度法、体表指標
3	第2章 経脈・経穴	骨度法、体表指標
4	第2章 経脈・経穴	要穴（四総穴・原穴）の経穴名、部位、取穴
5		要穴（原穴）の経穴名、部位、取穴
6		要穴（原穴）の経穴名、部位、取穴
7		要穴（八脈交会穴）の経穴名、部位、取穴
8		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手太陰肺経）
9		中間試験
10	第2章 経脈・経穴	経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手少陰心経・手厥陰心包経）
11		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手陽明大腸経）
12		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手太陽小腸経）
13		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手少陽三焦経）
14		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（手少陽三焦経）
15		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（督脈）
16		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（督脈）
17		
18		期末試験（筆記）
19	第2章 経脈・経穴	経脈の流注、経穴名、部位、取穴（任脈）
20		経脈の流注、経穴名、部位、取穴（任脈）

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実習Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	菊地 裕一 手塚 清恵 他
7. 授業形式	授業前に教室での講義か、実技室での実技練習か連絡します。
8. 授業の目標	臨床において必要な技術、知識を身につける。
9. 成績評価	出席状況を中心に、課題の提出状況、実習中の評価を総合的に評価する。
10. 受講上の注意	授業と実習はすべて出席です。やむを得ず休む場合は、必ず事前に連絡し、欠席届を後日、提出すること。
11. 教科書	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ
12. 副読本	『図解鍼灸臨床手技マニュアル』医歯薬出版
13. 推薦参考図書	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』南江堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		外部実習ガイダンス（Jリーグ担架救護・郡山シティマラソン）
2		介護実習ガイダンス（車イス・歩行介助）
3		外部実習 郡山シティマラソン実習
4		介護保険について 郡山シティマラソン実習振り返り
5		画像診断
6		画像診断
7		画像診断の復習
8		画像診断
9		画像診断の復習
10		画像診断
11		画像診断
12		画像診断
13		外部実習 Jリーグ担架救護
14		外部実習 Jリーグ担架救護
15		介護事前実習
16		介護事前実習
17		医療面接の練習
18		医療面接の練習
19		臨床実習について
20		介護ステーション実習
21		介護ステーション実習
22		介護実習振り返り
23		開業に向けて
24		開業に向けて

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実習Ⅲ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等3年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	菊地 裕一 他
7. 授業形式	授業前に教室での講義か、実技室での実技練習か連絡をします。
8. 授業の目標	臨床において必要な技術、知識を身につける。
9. 成績評価	出席状況を中心に、課題の提出状況、実習中の評価を総合的に評価する。
10. 受講上の注意	授業と実習はすべて出席です。やむを得ず休む場合は、必ず事前に連絡し、欠席届を後日、提出すること。
11. 教科書	鍼灸技術ガイドⅠ・Ⅱ
12. 副読本	『図解鍼灸臨床手技マニュアル』医歯薬出版
13. 推薦参考図書	『新版 東洋医学臨床論（はりきゅう編）』南江堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		徒手検査練習
2		徒手検査練習
3		症例発表会
4		第3学年とのOSCE合同練習会
5		治療院実習ガイドランス、実技試験ガイドランス
6		治療院見学実習
7		治療院見学実習
8		治療院見学実習
9		治療院見学実習
10		治療院見学実習
11		開業に向けて
12		医療連携について
13		医療連携について
14		医療面接から施術までのながれについて
15		実技試験練習
16		実技試験練習
17		実技試験練習
18		実技試験練習
19		実技試験練習
20		実技試験練習
21		臨床実習実技試験
22		臨床実習実技試験振り返り
23		問診の模擬試験
24		問診の模擬試験の振り返り
25		3年生の実習について

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床実習IV※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等12年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	塩野 拓人、他
7. 授業形式	実習および症例検討
8. 授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本実習は3年間の総まとめとして、直接、外来患者に接することを通じて、授業で学習した知識、技能、態度を臨床現場で統合することを目指す。 ・鍼灸臨床の知識・技術を生かして障害部位、反応点等を把握し、病態に対する鍼灸適用の適・不適の判断や経過・予後の状況等について附属治療院で実習経験することを目的とする。
9. 成績評価	実習および症例検討によるレポートの提出等により総合的に評価する。
10. 受講上の注意	清潔なKCあるいは白衣を着用すること。指輪、ネックレス、マニキュア、茶髪の禁止等、学生規則に則った身だしなみであること。携帯電話の使用禁止。原則として遅刻は認めない。諸事情により欠席する場合は必ず連絡を入れること。
11. 教科書	各自必要な教科書を準備すること。
12. 副読本	『図解 鍼灸療法技術ガイドⅠ・Ⅱ』 矢野忠（編） 文光堂
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		ガイダンス、症例検討①
2		ガイダンス、症例検討②
3		治療体験シミュレーション①
4		治療体験シミュレーション②
5		カンファレンス
6		症例発表（クラス内）①
7		症例発表（クラス内）②
8		症例発表（クラス内）③
9		症例発表（クラス内）④
10		症例発表（クラス内）⑤
11		症例発表（クラス内）⑥
12		症例発表（全学年）①
13		症例発表（全学年）②
14		OSCE復習
15		治療院見学・補助
16		治療院見学・補助
17		治療院見学・補助
18		治療院見学・補助
19		治療院見学・補助
20		治療院見学・補助

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	総合領域 I ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等16年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良美歩
7. 授業形式	講義
8. 授業の目標	あはき師の歴史を知り、現代の課題を理解する。東洋医学の基礎である東洋的思想を知る。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る。配布資料は授業時に持参をしてください。
11. 教科書	『新版 東洋医学概論』 社団法人 東洋療法学校協会篇 医道の日本社
12. 副読本	『針灸の歴史 悠久の東洋医術』 あじあブックス大修館書店 『医療概論』 社団法人 東洋療法学校協会篇 医歯薬出版株式会社
13. 推薦参考図書	『日本医療史』 新村拓 吉川弘文館

14. 講義スケジュール		
回数	単元	概要
1	あはき史について	医学史の意義 はり・きゅうの起源
2	古代の医学と医療	東洋の医学と医療
3	中世の医学と医療	東洋の医学と医療
4	中世の医学と医療	東洋の医学と医療
5	近世の医学と医療	東洋の医学と医療
6	現代の医学と医療	現代医学の課題 西欧近代医学
①	統合教育科目 I	総復習
7		中間試験
②	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業
8	現代の医学と医療	現代医学の課題 東洋医学 現代のはり師きゅう師の現状
9	第3章 東洋医学の思想	第1節陰陽学説
10		第1節陰陽学説
11		第2節五行学説
12		第2節五行学説
13		第2節五行学説
14		第2節五行学説
③	統合教育科目 I	総復習
15		期末試験
④	統合教育科目 I	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	総合領域Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	小野 かおり
7. 授業形式	演習
8. 授業の目標	経穴の取穴に必要な人体の骨・筋の位置や名称を把握することを目標とする。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	3分の2以上の出席で受験資格を得る。 色鉛筆を持参してください。
11. 教科書	『解剖学』 公益社団法人 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社 『ネッター解剖学アトラス』 南江堂 解剖学ワークブック
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	『ネッター解剖学カラーリングテキスト』 南江堂

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	上肢	上肢帯の骨
2		上腕の骨
3		前腕の骨
4	下肢	下肢帯の骨
5		大腿の骨
6		中間試験対策
7		復習
8		中間試験
①	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業
9		下腿の骨
10		足の骨
11		足の骨・手の足
12		手の足
13		期末試験対策
14		期末試験対策
②	統合教育科目Ⅰ	総復習
15		期末試験
③	統合教育科目Ⅰ	試験結果と振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅰ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等20年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 通年
5. 単位数	4単位
6. 担当講師	手塚 清忠 他
7. 授業形式	座学他
8. 授業の目標	各科目の復習と理解を深めることを目標とする。
9. 成績評価	期末試験に中間試験・校内模試の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	日程を確認し、欠席をしないこと（欠席する場合は事前に連絡すること）。提出物は必ず提出すること。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		新入生研修会
2		新入生研修会
3		交流会
4		総復習
5		総復習
6		総復習
7		総復習
8		総復習
9		総復習
10		総復習
11		総復習
12		校内模試
13		授業と振り返り授業
14		授業と振り返り授業
15		授業と振り返り授業
16		授業と振り返り授業
17		授業と振り返り授業
18		授業と振り返り授業
19		授業と振り返り授業
20		授業と振り返り授業
21		授業と振り返り授業
22		総復習
23		総復習
24		総復習
25		総復習
26		総復習
27		総復習
28		総復習
29		総復習
30		総復習
31		定期試験
32		振り返り授業
33		振り返り授業
34		振り返り授業
35		振り返り授業
36		振り返り授業
37		振り返り授業
38		振り返り授業
39		振り返り授業
40		振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	4単位
6. 担当講師	小野 かおり ほか
7. 授業形式	座学、演習
8. 授業の目標	各科目の復習と理解を深めることを目標とする。
9. 成績評価	期末試験に中間試験の結果と平常点（小テストや出席、授業態度等）を加味して評価する。
10. 受講上の注意	提出物は必ず提出してください。 やむを得ず欠席する場合には事前に連絡をすること。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1		校内模試
2		校内模試
3		オリエンテーション
4		総復習
5		総復習
6		総復習
7		総復習
8		総復習
9		総復習
10		校内模試
11		解説作成
12		授業と振り返り授業
13		授業と振り返り授業
14		授業と振り返り授業
15		授業と振り返り授業
16		授業と振り返り授業
17		授業と振り返り授業
18		授業と振り返り授業
19		授業と振り返り授業
20		総復習
21		総復習
22		総復習
23		総復習
24		総復習
25		総復習
26		総復習
27		総復習
28		期末試験
29		振り返り授業
30		振り返り授業
31		振り返り授業
32		振り返り授業
33		振り返り授業
34		振り返り授業
35		振り返り授業

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ－1 A
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	濱津 慶子
7. 授業形式	4択演習と解答解説
8. 授業の目標	国家試験合格のための実力を身に付け、他の科目との関連性を認識する。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	教科書（時に解剖学も含む）を必ず持参すること
11. 教科書	生理学（医歯薬出版株式会社）
12. 副読本	特にない
13. 推薦参考図書	生理学 受験と学習マニュアル（桐書房）

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	循環	血圧の調節
2	泌尿器	血圧の調節
3	呼吸	呼吸の調節
4	体温	体温の調節
5	代謝	代謝経路と相互関係
6	内分泌	ホルモン分泌の調節
7	生殖	性周期から妊娠出産まで
8		期末試験

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目Ⅲ－1B
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	飯島 直子
7. 授業形式	作製したプリントを中心に授業を進める。教科書も一部参考にする。
8. 授業の目標	国家試験に全員合格できることを目指し授業をする。
9. 成績評価	期末試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	私語や居眠りは厳禁。授業内容は丸暗記ではなくなるべく仕組みを理解するように。 iPadを必ず持参すること。
11. 教科書	『病理学概論』 社団法人 東洋療法学校協会 医歯薬出版
12. 副読本	無し
13. 推薦参考図書	『病理学』 堤寛著 医学芸術社

14. 講義スケジュール		
回数	単 元	概 要
1	第6章	進行性病変
2	第6章	進行性病変
3	第6章	進行性病変
4	第6章	進行性病変
5	第4章	循環障害
6	第4章	循環障害
7	第4章	循環障害
8		期末試験

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	統合教育科目IV-5※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等16年勤務）
2. 科目分類	専門分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良 美歩、他
7. 授業形式	鍼灸国家試験に向けて国家試験と同様の形式の模擬試験を行う。
8. 授業の目標	国家試験合格のために、問題数や解答方法、出題傾向に慣れ、対応できるようになる。
9. 成績評価	定期試験の結果で評価する。
10. 受講上の注意	事前に模試の日程を確認し、事前に欠席しなければならない場合は欠席届を提出すること。 模擬試験当日に、欠席せざる負えなくなった場合は、試験開始時間前に鍼灸科校舎に電話をすること。
11. 教科書	国家試験に出題される科目すべての教科書や参考書
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		オリエンテーション
2		校内模試
3		校内模試
4		合同模試
5		合同模試
6		校内模試
7		校内模試
8		論文大会
9		合同模試
10		合同模試
11		総復習
12		総復習
13		総復習
14		総復習
15		総復習
16		総復習
17		総復習
18		総復習
19		校内模試
20		校内模試
21		校内模試
22		校内模試
23		合同模試
24		合同模試
25		後期期末試験
26		後期期末試験
27		校内模試
28		校内模試
29		合同模試
30		合同模試
31		校内模試
32		校内模試

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	職業教育 I ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等20年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第1学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	手塚 清恵 他
7. 授業形式	講義、その他
8. 授業の目標	研修や学会などに取り組み、学校での交流・業界への理解を深めることを目的とする。
9. 成績評価	出席状況、課題・レポートの提出状況などで評価する。
10. 受講上の注意	欠席はしないこと（欠席する場合は事前に連絡すること）。 提出物は必ず提出すること。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		新入生研修会
2		新入生研修会
3		講演会
4		校内模擬試験（間違い直し）
5		校内学術論文大会
6		講演会
7		校内模擬試験（間違い直し）
8		全日本鍼灸学会学会

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	職業教育Ⅱ※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等6年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第2学年 通年
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	小野 かおり ほか
7. 授業形式	講義他
8. 授業の目標	多様な学びの機会に積極的に参加し、たくさんの知識を吸収することを目標とする。
9. 成績評価	出席状況、課題・レポートの提出状況などで評価する。
10. 受講上の注意	必ず出席してください（やむを得ない事情で欠席する場合には事前に連絡すること）。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1		模試問題解説作成
2		卒業生講演
3		学術論文大会
4		解剖見学実習（福島県立医科大学）
5		解剖見学実習（福島県立医科大学）
6		卒業生講演、問題模試解説作成
7		全日本鍼灸学会 東北支部 A/B講座
8		ウィンタースポーツ実習

2023年度 講義計画書（前期）

1. 科目名	臨床研修※実務経験のある教員の授業科目（鍼灸院等16年勤務）
2. 科目分類	応用分野
3. 対象学科	鍼灸科 1部
4. 対象学年・対象学期	第3学年・前期
5. 単位数	1単位
6. 担当講師	千木良 美歩
7. 授業形式	台湾の中医薬大学にて講義または、臨床施設見学等
8. 授業の目標	日本と環境の違いや中医学特有の鍼灸の治療アプローチの違いを知り、経験を臨床に活かせるようにする。
9. 成績評価	出席とレポート提出によって評価する。
10. 受講上の注意	健康に留意して礼節を大事にし、団体行動を意識して行動する。
11. 教科書	
12. 副読本	
13. 推薦参考図書	

14. 講義スケジュール

回数	単 元	概 要
1	台湾海外研修	台湾の中国医薬大学にて現地の臨床施設の見学や現地の講師による講義の聴講を行う。
2		同上
3		同上
4		同上
5		同上
6		同上
7		同上
8		同上
9		同上
10		同上